



『ふるさと川西のきずなを大切に、夢に向かってチャレンジする子どもの育成』

校歌に込められた思いを受け継いで

佐山小の児童の自慢は、校歌の歌声です。式や全校朝会など、校歌を歌う機会は学校生活の中で幾度かありますが、いつも、その歌声の明るさや力強さに圧倒されています。

4月の入学式や始業式を終えてからの数日間は、いろいろな教室や音楽室から、校歌を歌う声が聞こえてきました。入学や進級の喜びを歌に乗せているかのようでした。1年生もあっという間に校歌を覚えました。当然、校歌は佐山小児童の愛唱歌です。

さて、佐山小の校歌の誕生は、いつだかご存じですか？学校沿革史によると、「昭和49年(1974年)1月26日「校歌作成委員会」で『校歌』決定」とあります。なんと、今からおよそ50年も前に作られたのです。すると、児童にとっての親世代、またその親世代の佐山小卒業生の方々は、同じ校歌を歌っておられたことになります。3代にわたって、歌い継がれていることを思うと、感慨もひとしおです。

歌詞を見てみると、驚かされることがあります。それは、50年前に作られているにもかかわらず、まさしく現代の子どもたちにこうあってほしいと願っている姿「めざす子ども像」や「育みたい資質や能力」と、重なっていることです。特に、川西4校で掲げている「挑戦」に、ぴったりと当てはまっているように思えます。

1番の歌詞には「明るく清くたくましく 伸びよう」

2番の歌詞には「ひらけよ進め おおらかに励もう」

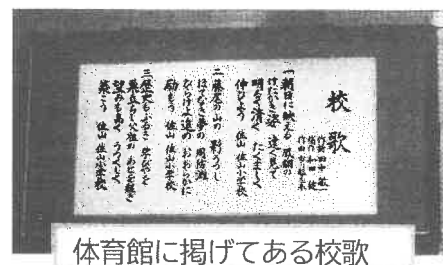
3番の歌詞には「望みも高く うつくしく築こう」

と謳われており、「未来を拓くために、チャレンジ精神で歩いてほしい」という願いが伝わってきます。まるで、50年後の子どもたちにまで、エールを送っていただいていたのではないかな？と、作詞をされた「田中敏一」氏や監修の「和田健」氏にお尋ねしたいという気持ちになります。

実は、校長室のいくつかの書籍を開いてみましたが、校歌作成の経緯について詳しくは分かりませんでした。(どなたか知っておられる方は、教えていただければありがたいです。)ただ、今年は開校150周年。ちょうど約50年前に作られたということでしたら開校100年を記念して作られたのかも…とも思え、校歌の重みをさらに感じます。

子どもたちには、多くの人に歌い継がれ、願いの込められた歌であることを伝えたいと思います。そして、11月8日(土)の開校150周年記念式典では、保護者や地域の皆様と一緒に、世代を超えて声高らかに歌うことができると嬉しく思います。

余談ですが、実は校歌の作曲者「市川都志春」氏の名前を見たときに、「あっ、この方は…」と思い至り調べてみました。見覚えのあった名前のこの方は、有名な作曲家で全校の子どもたちがお世話になっている方です。1年生では「どんぐりさんのおうち」で、2年生では「こぐまの二月」で鍵盤ハーモニカの演奏に親しみます。4年生では「陽気な船長」でリコーダー演奏を…。どれも音楽の教科書に載っており、6年間のうちに、ほかにいくつかの曲に出会い、口ずさんだり演奏したりします。そんな方の作られた校歌だと知ったら、子どもたちはどのように感じるでしょう？



体育館に掲げてある校歌